

農食歯医連携によるプラネタリーヘルス



一般社団法人プラネタリーヘルスイニシアティブ 代表理事
天籟株式会社 代表取締役 医師

桐村 里紗

Lisa Kirimura

座長 川上 智史

ヒューマンヘルス、ヒューマンウェルビーイングの実現は人類普遍のテーマである。

日本では、高齢化に伴いがんの罹患率死亡数は増加し続ける一方で、同時に、生物多様性の減少や環境の劣化、また感染症パンデミックや戦争など様々な社会課題や環境課題が喫緊の解決を求められている。

特に人の食糧生産に関わる農業や畜産による森林破壊や土壌、生態系への影響は甚大で、地質学的に人類が地球の地質（土）に深刻な影響を与える「人新世（アントロポセン）」と言われる時代に、個人、または人間の集団だけを部分最適化するヘルスケアは明らかに限界を迎えている。

「プラネタリーヘルス (Planetary Health)」は、人と地球の全てのシステムは相互に依存し合い、密接に繋がっているという考え方を前提に、人を含む地球の全体最適化を目指す最も統合的なヘルスケア概念である。2015 年『The Lancet』において提唱されてから国際的な研究や実装が進められているヘルスケア概念である。様々な地球課題は、直接的、間接的、生態学的に私たちの健康にも影響を与えており、それらを同時に解決しない限り、人の健康課題も解決しないことが示されている。対策として提案されているのが、人にも環境にも最もインパクトが大きい食の改善である。アメリカにおける男女の 3 つの前方予測コホートにおいて、EAT-Lancet 委員会が提案したプラネタリーヘルスを実現するためのダイエツを踏まえ開発されたプラネタリーヘルス・ダイエツの遵守度を定量化するための指標 Planetary Health Diet Index「PHDI」が最も高い群は、最も低い群と比較して、心血管疾患による死亡リスクが 14%、がん死亡のリスクが 10%、呼吸器系死亡リスクが 47%、神経疾患死亡リスクが 28% 低かったことが明らかにされている。

変化し続ける社会環境、地球環境の中で、日本の食環境も大きく変化しているが、日常的な食の選択の変化により、炎症、免疫系の変化を通じて、発がんリスクにもつながっている。

同時に、日本は多くの食糧を輸入に頼り、生産地の国々の農畜産物を通して生物多様性低下や土壌劣化などの原因になっている。人と地球の健康に大きく関わる食を通じて腸内環境と土壌環境を再接続し、微生物との共生関係を明らかにする「微生物循環系」を通じて生態系の一部としての人を再定義し、人と地球の健康において不可欠な土を回復させる農食医歯連携「アグリデントメディスン」を提案したい。

ブラネタリーヘルス実現の鍵は、人を洞察してきた医療・ヘルスケア従事者のシフトと分野を越境した連携である。今、医療従事者に求められている大転換（グレートトランジション）とは何かをここに示したい。

略歷

2004年愛媛大学医学部医学科卒業後、内科診療に従事。分子整合栄養医学や腸内細菌学等を用いた予防医療から生活習慣病、在宅診療まで総合的に臨床医療を行う。

2018年天籟株式会社を設立し、人を含む地球全体の健康・ウェルビーイングを目指す国際的ヘルスケア目標「プラネタリーヘルス」を推進。

2022年9月より東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻道徳感情数理工学の主宰とともに共同研究員として、量子ゲート数値「四則和算」をもとにプラネタリーヘルスの応用研究を行う。

2022年11月鳥取県京府町とプラネタリーヘルス連携協定を締結。

2023年9月公益財団法人日本プラネタリーヘルス協会内にプラネタリーヘルスイニシアティブを設立し、代表理事に就任。

2025年5月、一般社団法人プラネタリーヘルスイニシアティブとして独立。

主な著書に「腸と森の「土」を育てる」(光文社新書)他。

所属団体等

日本内科学会
日本抗加齢医学会

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

【メモ欄】